

Information9

今月のインフォメーションは『薬の飲ませ方』についてです
当院では、錠剤以外にも粉・シロップの加工があります。

薬の作用

動物の病気に用いられる薬は、作用のしかたから大きく2つに分けられます。

I.動物の細胞に作用する薬で、これには病気によって損なわれた機能を「補う」ものや、逆ににはたらしすぎの機能を「抑える」ものなどがあります。
動物の体の細胞に作用する薬の多くは、症状を軽くする。
このような治療法を「**対症療法**」と言います。

II.感染症に用いられる薬で、
原因となる細菌、ウイルス、寄生虫などの病原体に作用する。
このような治療法は「**原因療法**」と言います。

引用：ビジュアルで学ぶ動物看護学 チクサン出版社 緑書房

POINT

薬を飲ませるとなると顔の周りを触ることになります。

まず初めに顔を触るところから練習しよう！

〔例〕顔を触る→口を触る→歯を触る→口を開ける

触らせてくれたらご褒美をあげましょう♪

この繰り返しで少しずつ慣れさせて、

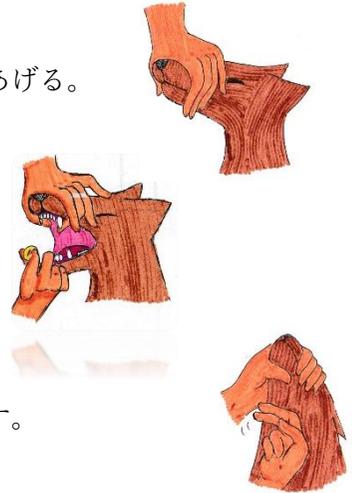
もしつまづいたら、ワンステップ戻って出来たら次へ進みましょう！



薬の種類

【錠剤】

- ① 上顎を上から片手でつかんで顔を少しあげる。
- ② もう一つの手で下顎を下げて口を開け、錠剤を喉の奥に置く。
- ③ 口をしっかりと閉じて喉をさすります。



※投薬後は薬が喉につまりやすいので、

飲ませた後スポイトなどで**水を飲ませてあげましょう！**



【粉】～いろいろな飲ませ方～

- ◎フードにかける
- ◎少量（食べきる量）の缶詰に混ぜる
- ◎粉を水に溶かしスポイトなどで犬歯の後方の隙間から薬をゆっくり流し込む
- ◎水で薬を歯磨き粉くらいに練って上顎に塗り付ける



【シロップ】

- ① スポイトに液剤を入れる。
- ② 頭をやや上向きに口を閉じたまま犬歯の後方の隙間から薬をゆっくり流し込みます。

